

提言書

阿賀野市宝珠温泉保養センターあかまつ荘の在り方について

令和4年12月15日

阿賀野市宝珠温泉保養センターあかまつ荘の在り方検討会

目次

はじめに	1
1 検討の前提事項	2
(1) 設置目的	2
(2) 施設の状況	2
①施設概要	2
②温泉データ（掘削時）	2
③施設の管理運営手法	3
④年度別入館者数	3
⑤これまでの修繕内容・金額	5
2 検討の視点	6
(1) 市の人口及び財政状況	6
(2) 市民アンケート調査結果	7
(3) 検討の視点	7
3 施設の在り方に対する提言	8
(1) 基本的な考え方	8
(2) 提言1	8
(3) 提言2	9
おわりに	10
参考資料	11
・阿賀野市宝珠温泉保養センターあかまつ荘の在り方検討会委員名簿	11
・阿賀野市宝珠温泉保養センターあかまつ荘の在り方検討会の開催経過	11

はじめに

宝珠温泉保養センターあかまつ荘は、平成5年4月に旧安田町が温泉井戸を採掘し日帰り温泉として運営を開始しました。

その後、平成7年度に増築するとともに、安田農村環境改善センターを併設し平成8年1月にリニューアルオープンしました。

入館者数は平成9年度の129,107人をピークに平成15年度までは10万人を超えていましたが、平成16年度以降は年々減少し、令和元年度では70,347人まで落ち込み、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和2年度及び令和3年度は5万人未満となりました。

運営開始から平成15年度までは旧安田町、平成16年度から平成25年度までは市が運営を行い、平成26年度から令和3年度までは民間事業者が指定管理者として運営を行ってきました。

しかしながら、近年の利用者数の減少傾向に加えて、新型コロナウイルス感染症の発生により利用者数の増加が見込めない中、令和4年度から令和7年度までを指定管理期間として令和3年度に指定管理者の公募を行いました。選定に至らずに令和4年4月1日から休館することとなりました。

一方、令和4年3月23日には、1,600名を超える署名が集まり、施設の存続を求める陳情書が市長へ手渡されました。

陳情書の提出を受け、市民及び識見を有する者11名で構成する本検討会が設置され、8月下旬から12月上旬にかけて5回にわたり、先進地視察を含め、施設の在り方についての協議を重ねてきました。

この度、以下のとおり意見を集約し、提言書として取りまとめましたので提出します。

1 検討の前提事項

(1) 設置目的

阿賀野市営温泉保養センター条例において、次のとおり設置目的が定められている。

(設置)

第1条 市民の心身の健全な保養を図り、福祉の増進に資するため温泉施設を設置する。

(2) 施設の状況

①施設概要

◆宝珠温泉保養センターあかまつ荘

平成5年4月1日オープン

耐用年数 22年 木造

平成8年1月増築

耐用年数 34年 鉄骨造

敷地面積 1,649 m²

施設 木造平屋建 411.22 m²

施設内容 一般風呂・脱衣場(男女)、専用風呂・脱衣場(男女)、休憩室、倉庫、機械室

〈隣接施設〉

◆安田農村環境改善センター

平成8年1月オープン

耐用年数 47年 鉄筋コンクリート造

敷地面積 5,895 m²

施設 鉄筋コンクリート造平屋建 999 m²

施設内容 多目的ホール、和室研修室、調理実習室、営農相談室、農事研修室、事務室、玄関ホール、談話ロビー、展示コーナー、便所(男・女)、障害者用便所、玄関、機械室、倉庫、機械室、駐車場

②温泉データ(掘削時)

項目	概要	備考
1 深 度	1,200メートル	
2 湧出量	動力揚湯(ポンプ) 160.200/min	
3 揚水水位	176.0m	
4 泉 温	43.9℃	気温により変化

5 泉 質	ナトリウム-硫酸塩泉	(弱アルカリ性、低張性、高温泉)
6 泉質別適応症	動脈硬化症、きりきず、やけど、慢性皮膚病	

③施設の管理運営手法

平成5年度～平成25年度 直営

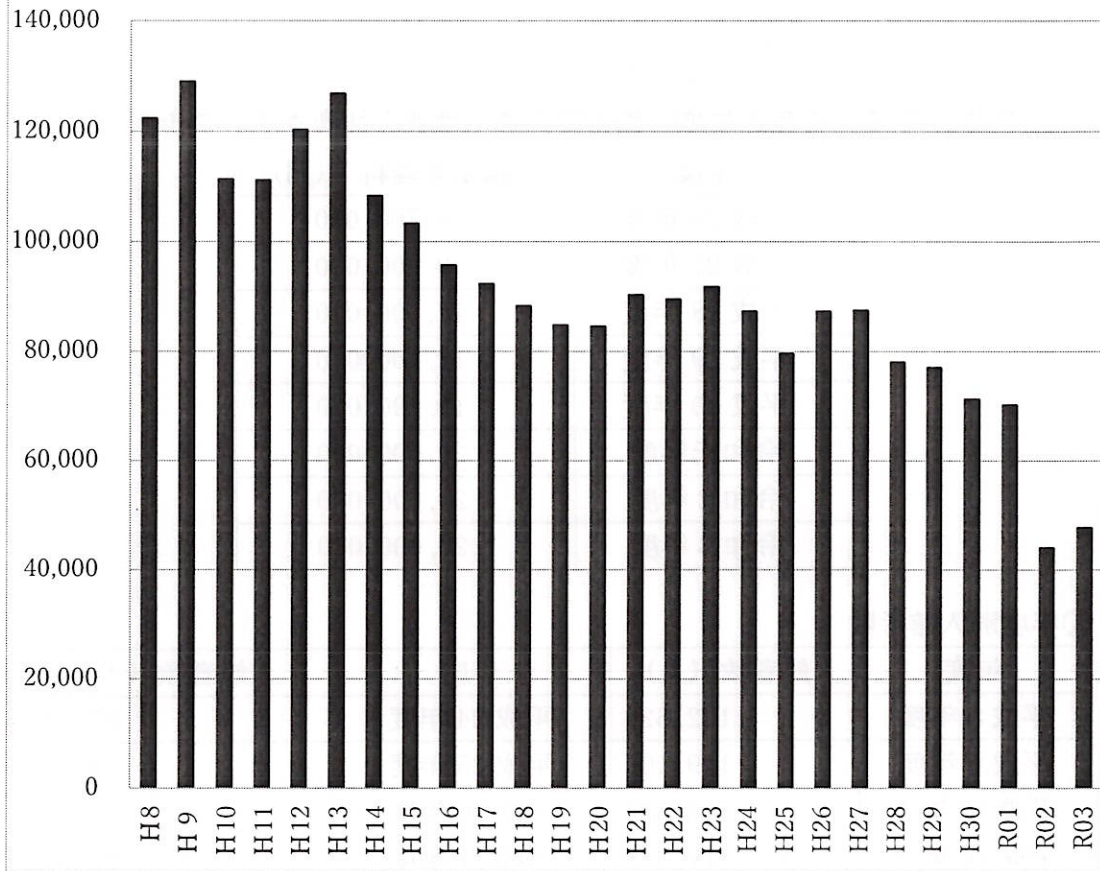
平成26年度～令和3年度 指定管理者（株式会社共立メンテナンス）

年度	指定管理料（円）
平成26年度	20,700,000
平成27年度	19,400,000
平成28年度	17,500,000
平成29年度	17,000,000
平成30年度	19,000,000
令和元年度	20,000,000
令和2年度	20,000,000
令和3年度	20,000,000

④年度別入館者数

年度	入館者数（人）	年度	入館者数（人）
平成8年度	122,529	平成24年度	87,382
平成9年度	129,107	平成25年度	79,683
平成10年度	111,382	平成26年度	87,390
平成11年度	111,228	平成27年度	87,557
平成12年度	120,444	平成28年度	78,101
平成13年度	126,913	平成29年度	77,158
平成14年度	108,342	平成30年度	71,419
平成15年度	103,375	令和元年度	70,347
平成16年度	95,814	令和2年度	44,212
平成17年度	92,427	令和3年度	47,858
平成18年度	88,359		
平成19年度	84,868		
平成20年度	84,610		
平成21年度	90,340		
平成22年度	89,589		
平成23年度	91,958		

宝珠温泉あかまつ荘 年度別入館者数（人）



⑤これまでの修繕内容・金額

年度	内容	金額 (円)
平成 18 年度	源泉ポンプ入替工事	2,289,000
	下手風呂ろ過ポンプ修繕	49,560
	下手風呂ろ過ポンプ修繕	34,230
	下手風呂ろ過ポンプ修繕	31,500
平成 20 年度	温泉井戸改修工事	12,495,000
平成 21 年度	上手風呂濾過ポンプ修繕	64,680
	下手風呂濾過ポンプ修繕	45,150
平成 22 年度	一般風呂シャワー取替修繕	703,500
平成 25 年度	温泉用深井戸ポンプ修繕工事	2,755,200
	昇温用熱交換器プレート修繕	201,900
	一般風呂熱交換器修繕	492,800
	農事研修室床板修繕	63,000
	専用風呂床板修繕	357,000
	廊下及び外壁修繕	189,525
	厨房備品	4,410,000
平成 26 年度	予備用ポンプ購入	1,620,000
	冷温水配管修繕	1,080,000
	風呂給湯配管修繕	959,040
平成 27 年度	一般風呂設備機器修繕	999,810
平成 28 年度	ポンプ類取替	345,600
	脱衣場ロッカー錠前交換	366,120
	一般浴室棟修繕	5,070,600
平成 29 年度	体育館畳上敷張替	388,692
	専用風呂閉鎖	918,000
	非常照明修繕	408,240
平成 30 年度	一般風呂機械室機器更新	2,160,000
	体育館冷暖房機器修繕	345,600
	吸収冷温水器メインブロック コントロールボックス修繕	887,220

	石油エンジン室外機通信基盤修繕	167,400
令和元年度	温泉用深井戸ポンプ入替工事	1,080,000
	吸収冷温水機、高温再生器、高温熱交換器、低温熱交換器交換修繕	1,210,000
	吸収冷温水機の冷却塔摩耗部品交換修繕	506,000
	吸収冷温水機の溶液循環ポンプ交換修繕	385,000
	一般風呂濾過ポンプ修繕	113,850
	源泉塩素注入装置修繕	180,620
	ブローアerpンプ取替修繕	249,975
	高圧電気設備改修工事	1,126,400
令和2年度	濾過材装置濾材交換 循環配管洗浄修繕	923,450
	体育館冷暖房機室外機修繕	377,740
令和3年度	体育館冷暖房機コンプレッサー交換整備	352,000
	脱衣場空調設備修繕	198,000
	ろ過ポンプ修繕	671,000
合計		47,272,402

2 検討の視点

(1) 市の人口及び財政状況

①人口の推移【国勢調査】

平成7年まで人口は増加基調でしたが、それ以降は減少傾向となり、令和2年時点で40,696人となっており、平成12年(48,456人)比で16%の減少となっている。

②将来の人口推計【国立社会保障・人口問題研究所】

令和17年の推計人口は36,034人であり、平成12年(48,456人)比で25.6%の減少が予測されている。

③財政構造(歳入)【阿賀野市財政計画】

歳入全体に占める自主財源(市税や使用料など)の比率が低く、依存財源(地方交付税など)の比率が高いことから財政上の弾力性が弱いため、財政調整基金や各特定目的基金に一定の残高を確保して柔軟に対応することなどで、弾力的な財政運営を行うこととしている。

④財政構造(歳出)【阿賀野市財政計画】

義務的経費のうち、人件費については、令和5年度以降、令和4年度予算額を上限に推移すると予測している。公債費は、計画的な借入により

減少傾向にあるが、扶助費は、社会保障費関連の費用が増加しており、今後も同様の傾向が続くことを予測している。

(2) 市民アンケート調査結果

①施策に関する市民満足度の推移【阿賀野市総合計画】

令和2年度の調査結果を平成28年度の結果と比較すると、「上水道の安定供給」「汚水処理の推進」「生活衛生・環境の保全」が引き続き市民の満足度の高い施策上位3位を占めている。また、「健康づくりの推進」が4位から5位に満足度の順位を下げた一方で、前回6位だった「地球環境・自然環境の保全」が4位に順位を上げている。

②施策に関する市民重要度の推移【阿賀野市総合計画】

令和2年度の調査結果を平成28年度の結果と比較すると、1位の「地域医療体制の充実」、4位の「子育て環境の充実」ならびに5位の「学校教育の充実」が前回と同じく上位にあり、引き続き市民が重要と考える施策であることがわかる。また、前回2位と3位の「上水道の安定供給」、「高齢者福祉の充実」に代わって、「公共交通の充実」と「観光の振興」の重要度が、前回から大幅に高まっており、市民意識に変化がみられる。

(3) 検討の視点

- ①将来的な人口減少、市の財政状況、市民アンケート結果を踏まえ、あかまつ荘の必要性について議論する。
- ②公金に頼らないあかまつ荘の施設運営の在り方について議論する。
- ③あかまつ荘の設置目的である「市民の心身の健全な保養を図り、福祉の増進に資する」に関し、あかまつ荘の施設運営以外の施策で同目的を達成できるものについての議論を行う。*

*上記①から③までの視点により議論した結果、③については、市の新たな多額の財政支出を伴う観点から成案が得られなかった。

3 施設の在り方に対する提言

(1) 基本的な考え方

将来的な人口減少、市の財政状況、市民アンケート結果を踏まえ、公金に頼らないあかまつ荘の施設運営の在り方及びあかまつ荘の設置目的「市民の心身の健全な保養を図り、福祉の増進に資するため、温泉施設を設置する。」を達成するための議論を行った。

委員意見を踏まえ、「A案：廃止する、B案：観光施設ではなく、高齢者福祉施設として運営する、C案：民間事業者を指定管理者に選定し運営する」の3つの案を素案として整理し、それぞれのメリットやデメリット、課題、概算費用、他自治体の事例を踏まえ協議を行った。この中で、C案については、令和3年度に指定管理者を2回公募したが選定に至らなかったことからこれを採らず、当検討会としては、A案とB案を踏まえて次に掲げる2つの案を提言する。

なお、B案については、地域住民がNPO法人を設立し施設運営を行っている他自治体温泉施設（阿賀町七福温泉七福荘）の視察を行い、NPO法人設立までの経緯や施設の運営体制、地域住民との関係性、利用者増加に向けた取り組み、今後の目標や課題などの聞き取りを行った結果、次のように変更のうえ整理を行った。

(変更前) 観光施設ではなく、高齢者福祉施設として運営する

(変更後) 地域住民が主体となり温泉施設として運営する

(2) 提言1：宝珠温泉保養センターあかまつ荘は廃止する

(市による管理運営は行わない)

歳出を抑制することができ、削減した財源を市民ニーズが高い他事業へ充当できる一方で、これまで温泉施設を利用していた市民が、心身の健全な保養（健康づくり、介護予防、利用者との交流など）を図りづらくなることが懸念される。

こうしたことから、提言1を採る場合は、廃止後に次のような取り組みを行うことを検討されたい。

すなわち、施設利用者の減少や老朽化により市の財政負担が今後増加することが見込まれ、民間事業者の新たな視点を取り入れた取り組みによる経営改善を試みた指定管理者による運営状況を踏まえ、市による施設の維持管理は困難と考えられることから、民間事業者への貸付や譲渡、売却を行うことを検討されたい。

なお、貸付や譲渡、売却を行う際は、市民サービス維持のため、温泉施設としての運営を条件付けて提案を受け付けた上で、提案が無い場合に限

り温泉以外の施設の有効活用を認めることを検討されたい。

(3) 提言2：地域住民が主体となり温泉施設として宝珠温泉保養センターあ
かまつ荘を運営する

市民が引き続き心身の健全な保養（健康づくり、介護予防、利用者との交流など）を図ることができる一方で、施設修繕費を含む多額の維持管理費が発生することが懸念される。

こうしたことから、温泉施設として運営する場合は、市の財政負担を極力抑え、地域住民が主体となり運営し、自らが率先して利用者増加へ向けた積極的な取り組みを行うこととする。

なお、提言2を採る場合は、まずは市との意思疎通を図ったうえで、施設運営にあたっては、例えば運営を開始してから3年などの一定期間経過後の目標指標を次のとおり設定し、目標未達成の場合は運営を中止し施設を廃止することなどを含めて検討されたい。

目標指標の例

項目	基準値 (令和3年度)	目標値 (3年経過後)	目標値設定の考え方
利用者数(人)	47,858人	70,000人	指定管理者制度導入(平成26～令和3年度)後の平均入場者数(70,505)
利用者1人あたりの運営経費(円) (歳出/利用者数)	747円	511円	令和3年度運営経費(35,772,309円)÷目標利用者数(70,000人)

おわりに

以上、本検討会での議論等を踏まえて、2つの提言をしました。あかまつ荘に関わるこれまでの経緯、果たしてきた役割と実績、今後の人口や財政状況の見通し、市民ニーズなどを踏まえて、市が適切に対応されることを期待します。

なお、提言2に関しては、地域が主体となって施設を運営し続けることは、ある意味で本市の今後の「住民自治の展開」「住民と市との協働」「住民主体の地域活性化」の点でモデルとなりうる可能性もあることを十分留意されることを望みます。

参考資料

阿賀野市宝珠温泉保養センターあかまつ荘の在り方検討会委員名簿

委員長	宍戸	邦久
副委員長	菊地	修市
委員	石井	誠一
委員	星野	智生
委員	齋藤	由春
委員	笠原	尚美
委員	八木	正男
委員	酒井	泰子
委員	市村	光子
委員	齋藤	利雄
委員	横山	馨太

阿賀野市宝珠温泉保養センターあかまつ荘の在り方検討会の開催経緯

年月	内容
令和4年8月31日	第1回検討会 ・施設の現況確認 ・現在までの経緯等及び今後の協議スケジュール
令和4年9月28日	第2回検討会 ・施設の必要性 ・公金に頼らない施設運営
令和4年11月1日	第3回検討会 ・施設の方向性
令和4年11月24日	第4回検討会 ・近隣自治体温泉施設の視察（阿賀町七福温泉七福荘）
令和4年12月5日	第5回検討会 ・提言書案

